



In 愛知 part2 実績報告書

- 趣 旨 愛知県の中・高校生のホッケー選手に対して競技力向上とホッケー競技の普及のため、ホッケーオリンピックより、ホッケーの楽しさを伝えると共に世界に羽ばたく選手の育成につなげる。
また、コロナ禍のためスポーツをする機会が減少している状況を踏まえて、改めてスポーツの楽しさを伝える。
- 主 催 (公社) 日本ホッケー協会
- 主 管 愛知県ホッケー協会、
- 期 日 令和4年7月23日(土) 9時から11時30分 中高生男子の部
〃 13時から16時 中高生女子の部
- 場 所 名古屋市庄内緑地公園陸上競技場(人工芝S)
- 参加者 向陽高校 男子30名 女子34名
愛知産業大学工業高校 20名
名古屋商業高校 19名
愛知スポーツクラブ 7名
- 講 師 清水 美並(リオオリンピック代表)
内藤 夏紀(元日本代表)
山下 彰子(元日本代表)
- その他 新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施する。
- 担 当 愛知県ホッケー協会 小坂井 悠平

【教室内容】

○午前の部（男子）

9:00 開校式

9:10 スキルトレーニング

（ドリブルシュートスキルパート）

① 認知・判断（Pod を使って）

* 少し顔を上げてドリブルすることを意識

② ヒットのフォームを意識したシュート

ヒットシュートからタッチシュート

* ゴール前の準備する姿勢を意識

リバウンドへの反応

③ 3D スキル

* ボールを乗せるときに左手を乗せやすい

* ボールと一緒に身体を前に運んでいくイメージで

④ シュートスキル

早いタイミングで打つ

* 自分が置きたいところにトラップで落とさなくても、ステップを踏んで合わせに行く

（ディフェンススキルパート）

① 1v1（ジャブの出しかた）

* 手数を増やす

* 足が並行にならないように半身の意識

② ストローク

ロングヒットの打ち合い

打ち手：打ちやすいところに身体を持っていく

受け手：動きながらレシーブできるように

11:30 質疑応答

11:50 終了

○午後の部（女子）

13:30 スキルトレーニング

（ドリブルシュートスキルパート）

① 認知・判断（Pod を使って）

* 少し顔を上げてドリブルすることを意識

② 3D スキル

* ボールを乗せるときに左手を乗せやすい

* ボールと一緒に身体を前に運んでいくイメージで

③ シュートスキル

早いタイミングで打つ

* 自分が置きたいところにトラップで落とさなくても、ステップを踏んで合わせに行く

（ディフェンススキルパート）

① 1v1（ジャブの出しかた）

* 手数を増やす

* 足が並行にならないように半身の意識

② ストローク

ロングヒットの打ち合い

打ち手：打ちやすいところに身体を持っていく

受け手：動きながらレシーブできるように

15:15 ゲーム（8分×4）11人制
バラバラのチームで対戦
試合ごとに講師からアドバイス

16:10 高校3年生 v 講師・指導者（エキシビジョンマッチ）

16:30 質疑応答

16:50 終了

【所感】

向陽高校 小坂井 悠平 様 コメント

前回と講師が変わったことにより、また新鮮な感じで学ぶことができました。女子チームの選手たちは講師が同性ということで安心して親近感をもって取り組むことができていたように感じました。

今回、私が愛知ホッケー協会の責任者として夢見るホッケー教室に応募しましたが、運営もほとんど山下さんが主導でやっていただき担当者としてとても助かりました。是非、また愛知でも開催して欲しいと思いますし、その他の地域でもこの教室が行われることが日本のホッケー界にとってとても意義のあることだと感じました。

向陽高校男子 川西先生 コメント

基本的なスキル中心の内容でしたが、代表クラスの選手から教わることでよりベーシックスキルの大切さを理解できたと思います。また、指導する立場からも練習のバリエーションや伝え方なども学べたいい機会でした。

愛知スポーツ倶楽部 小坂井美咲さん

前回、生徒から要望のあったディフェンスの練習は、サイドラインを使いながら対人を意識させることで、より試合へのイメージが深まる練習になると思った。光るアイテムを取り入れた練習は、地道な練習やトレーニングが苦手な子も、楽しくトレーニングができるので良いと思った。インターハイに出場する選手もいるので、モチベーションアップにもつながる良い機会になったと思う。

名古屋商業高校 天野先生

2週にわたり日本のトップ選手から非常に丁寧に、またわかりやすく指導していただき愛知の選手にとって大変貴重な機会となりました。終了後にも一人ひとりの質問に対しても熱心に答えていただき、多くの学びがある時間となりました。選手も指導者もこの学びを活かして愛知のホッケーを更に盛り上げていきたいと思えます。

講師コメント

清水 美並 (リオオリンピック代表)

特に高校生は、人工芝で試合をすることもあれば天然芝で試合をすることもあると思うので、ドリブル・シュートスキルの練習と共に、グラウンドによってスキルの向き不向きを判断してプレー選択しなければならないということを伝えました。このアドバイスが、少しでも子どもたちのスキル向上に繋がると嬉しいです。私自身も一緒にプレーしながら楽しめたので、とても貴重な経験になりました。

内藤 夏紀 (元日本代表)

高校生を教えるのは初めてでしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。練習中はもちろん、練習後にも沢山質問してきてくれて積極的に学ぼうとする生徒たちの姿勢に、刺激を受けました。これからもみんなにはホッケーを楽しんでほしいと思います。ありがとうございました。

山下 彰子 (元日本代表)

2回とも参加させていただきましたが、練習後も講師へ質問するなど、一人ひとりの向上心が感じられ、その姿勢にとっても感動しました。すぐにはできないことも多いと思いますが、この短時間で得たものを今後の試合や練習に活かしてほしいと思います。また、教えるだけでなく、一緒に試合をするなど、講師・指導者・選手、みんながお互いに楽しみながらホッケー教室ができたと思います。今回は強化という面も多かったと思いますが、高校生から始める生徒も全体の3分の1いて、ホッケーの魅力を伝えるという面でも、とても良い時間になったと感じました。

【教室風景】





